

緑の担い手

緑の雇用研修を 修了して

常陸太田市森林組合
箕輪 茉莉

正直なところ、私は、将来の夢や仕事として林業という職業を考えただけから、自然豊かな場所に住んでいたため、山の木や風景を身近に感じる事はありませんでした。産まれた時から、自然豊かな場所に住んでいたため、山の木や風景を身近に感じる事はありませんでした。逆に身近に感じすぎて、当たり前前のもものと思っていました。

しかし、高校3年生になって進路を決める際、先生からこんな職業もあるのだと勧められたのが、今の職業に就くきっかけになりました。職場を見学に行き、配られた資料を基に、山仕事の一連の流れや緑の雇用の研修について、詳しく説明していただきました。苗木を1本1本人の手で植え、数年間は欠かさず手入れをしてやらなければ、身近に感じられていた山にはならないということなど、山の役割や森林が育つ過程を初めて知ることができました。そして、不安もありましたが、私は、一度山の仕事に携わってみたいと思いました。

こうして森林組合に就職し、緑の雇用研修に参加してみたら、女性は私一人。山仕事に触れたことも無い私には、全てが初めての連続でした。3年間の研修は、あつという間のことでしたが、全てが有意義なものであり、この研修を受講したことで、山の作業は大変だけど大切なことを知り、環境や自然をもっと良くしていきたいという気持ちが強くなりました。

また、3年目の研修の後半には、全国森林組合連合会から声を掛けていただき、東京で開催された「森林の仕事ガイドランス」に参加させていただきました。私が想像していた以上に、林業に興味を持っている女性が多く、実際にいろいろな方と話をするのができ、貴重な経験となりました。

このような研修で得られた様々な経験を、今後の仕事に活かして頑張っていきたいと思えます。

